

平成22年度 第1回 宮城県食育推進会議 会議録（概要）

- 1 日時：平成22年6月9日（水）
- 2 場所：宮城県行政庁舎18階 1802会議室
- 3 出席委員（敬称略）
平本福子会長，若生裕俊副会長，高橋真佐子，鎌田均，藤本由紀子，佐々木賢司，
佐々木寿美子，尾本満雄，加藤房子，三浦さき子，鈴木美知恵，横山義正，
鈴木宏明，伊藤暢彦，三浦充帆
- 4 会議録

司会（健康推進課：亀山課長補佐）

ただ今から，平成22年度第1回宮城県食育推進会議を開催致します。当会議は，情報公開条例第19条の規定に基づき公開とさせていただきます。

本日は委員改選後，初の会議となりますので，委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

【委員の所属及び氏名を紹介】

委員18名に対し，15名の委員の出席をいただいております。食育推進会議条例第4条第2項の規定に基づき，本日の会議は有効に成立していることをご報告いたします。それでは，会議開会にあたり，岡部保健福祉部長から挨拶を申し上げます。

岡部保健福祉部長

本日は，お忙しいところ，御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様には，日頃から県政の推進に御支援，御協力をいただいておりますことに，この場をお借り致しまして，厚くお礼申し上げます。また，当推進会議の委員就任を御快諾いただきましたこと，改めて御礼申し上げます。

当会議は，食育に関する計画作成やその実施の推進について御審議をいただく場として，条例に基づいて設置されています。

委員の皆様には御承知のこととは存じますが，国では，国民が生涯にわたって健全な心身を培い，豊かな人間性を育むことができる社会の実現を目指し，平成17年に食育基本法を施行しました。

本県でも，平成18年11月に「宮城県食育推進プラン」を策定し，食べる力が健やかに生きる未来の力となるよう取組を進めてまいりました。関係者の皆様の御協力の下，県民運動としての食育が，家庭，学校や地域において少しずつ広がってきております。

これまでの進捗状況を見ますと，プランに掲げております18の目標指標のうち，「農業体験学習に取り組む小中学校の割合」など，2つの項目ですでに目標を達成しているほか，今年度中に約半分の指標で目標達成が見込める状況になりました。

一方，食をめぐるっては，食の安全安心を揺るがす問題を始め，食生活の乱れ，肥満や生活習慣病の増加，食の海外への依存，伝統的な食文化の危機等，様々な問題が生じており，食育への取組はますます重要性を増しています。

後ほど詳しく御説明申し上げますが，平成18年に策定した「宮城県食育推進プラン」は，今年度が目標年度となっております。今年度の当会議では，新たなプランの策定について，御検討をお願いしたいと考えております。

食育推進会議委員として2年間，御審議を賜る委員の皆様は，教育，生産者団体，医療・健康，学識経験者など様々な分野の専門家でいらっしゃいます。多様な観点から，忌憚のない御意見をいただきたいと存じますので，よろしく御審議を賜りますようお願い申し上げます。

司会

ここで，本日委員の皆様と同席しております職員を紹介いたします。ただいま挨拶申し上げます，保健福祉部岡部部長です。保健福祉部健康推進課南條課長です。

それでは，次第にしたがいまして，会長及び副会長の選任に移らせていただきます。本会議は，食育推進条例により設置されておりますが，条例第3条で「推進会議に会長及び

副会長を置き、委員の互選によって定める」と規定されております。

会長及び副会長の選任に当たりまして、岡部保健福祉部長を仮議長として進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

部長（仮議長）

会長、副会長が選出されるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

委員の皆様にお諮りします。この会議の会長及び副会長について、どのような方法で選出させていただいたらよろしいでしょうか。

藤本委員

これまでの審議の継続性との観点から、引き続き会長を平本委員、副会長を若生委員にお願いしたいと思います。

部長（仮議長）

ただいま、審議の継続性から会長に平本委員、副会長に若生委員という御推薦をいただきましたが、よろしいでしょうか。（委員から異議なしの声）では、平本委員、若生委員、よろしくお願いいたします。

以上で仮議長の役目を終わらせていただきます。御協力ありがとうございました。

司会

平本会長、若生副会長には、会長席、副会長席への御移動をお願いいたします。

それでは、会長、副会長を代表して平本会長から御挨拶を頂戴したいと思います。

平本会長

引き続き会長を務めることになりました、平本です。

第1期目は、国の計画にしたがって粛々と進めてきたわけですが、2期目は内実を高めていきたいと思っております。皆様よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従って進めてまいります。

はじめに、報告事項「平成21年度食育関連事業実施結果及び平成22年度食育関連事業実施予定」について、事務局から説明をお願いします。

事務局（健康推進課 片岡技術主査）

【資料1及び2により説明】

平本会長

事務局から資料について一部訂正がありました。その他、委員の皆様から御質問ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

では、協議事項に入ります。「第2期宮城県食育推進プランの策定について」事務局から関係資料の説明をお願いします。

事務局

【資料3及び4により説明】

議長（平本会長）

事務局から、資料3、4について御説明がありました。

今年度から新たに就任された委員がいらっしゃいますが、事務局から説明があったとおり、第1期プラン5年間の最終年度が本年度となりますが、最終年度の結果を待つと同時に第2期を作成ということで、重なり合って進んでいくという構造になっています。他県でもそういうやり方で進めています。

最終結果を待たずということですが、毎年度進捗を確認しておりますので、全く結果が分からないまま進んでいくということではございません。21年度の実績などを見ながら策定を進めていくということになると思います。

2点目は資料4の第2期策定のための基本方針です。資料4の2ですが、策定の方針ということで、この欄が大きな課題だと思います。事務局からの案としては、1点目は第

1期を継承するということ。2点目は、本県の特徴である食材の豊かさという部分を詰めていく。なおかつ、それでどういう課題に向かっていくのかということでは、本県特有の課題に対応していこうという案です。食材の豊かさとは本県の課題。プランには2つの大きな目標がございます。心身の健康を目指すことと豊かな食材を活用していくという2つの目標について、もう少し具体的に進めていこうということを御提案いただいたと思います。この点について、委員の皆様にもいろいろな御意見を頂戴したいと思います。

加藤委員

質問。前回から継続の委員で、資料等を前回から持っているんですが、平成21年度の第2回で県民のアンケート調査結果をまとめたものをもらいました。県民の食育への関心や問題意識をまとめた資料でしたが、新しく委員になられた方に資料として渡っているのか知りたいんですね。

第2期をまとめるに当たって、継続してきた委員はわかると思うんですが、新しく委員になった方には大変かなと思うので、皆さんのお手元にあるんでしょうか。

事務局（健康推進課 金井課長補佐）

3月の推進会議で配布した資料を参考資料として、本日配布しております。

議長（平本会長）

昨年度の食育に関する県民意識調査結果については、参考配布されておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

事務局（健康推進課 南條課長）

県民意識調査結果の概要については、資料5の右下の欄に主な項目のみ取り上げておりますので、こちらでも御確認ください。

横山委員（宮城県医師会）

今回初めて参加しました。

各市町村に食育基本計画がありますよね。それが県の計画とどういふ関係で調整されているのか、というのが一つ。また、仙台市は政令指定都市ということで、独自の計画になっているのではないかなと思うのですが、仙台市の食育計画との関係性はどのようになるのか、ということをお教えください。

事務局（健康推進課 金井課長補佐）

市町村の食育基本計画については、食育基本法第18条に基づいて作成されますが、法では市町村食育基本計画は県の食育推進計画を基本として作成することと規定されております。仙台市についても他の市町村と同じ位置づけとなります。

議長（平本会長）

よろしいでしょうか。

資料4の策定の方針について御意見をお願いいたします。

加藤委員（宮城県生活協同組合連合会）

横山委員の御発言に関係してですが、県計画の中に盛り込まれた数値目標と市町村計画との関連性ですね。県で数値目標を立てた時、市町村で同じ数値目標になるのか。県は高い目標を立てても、市町村では全く違う数値目標ということになるのか、どういう風に関連しているのでしょうか。

事務局

市町村では、県の計画に基づいて計画を作成しますが、すべて同じ数値目標ということではなく、各市町村の状況に合わせた内容となります。

加藤委員

宮城県のプランであっても、市町村によって違いがあるのは統一していない。県ではこうしているけれども、市町村では全く違う次元の話ということになるのですか。

事務局（健康推進課 南條課長）

市町村では、県の食育推進プランを踏まえて、その上で各市町村の特徴を生かしながら計画を作成していただくことになっています。

議長（平本会長）

他に御意見ございますでしょうか。

それでは、次に進めさせていただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局（健康推進課 金井課長補佐）

【資料5及び6により説明】

議長（平本会長）

第2期食育推進プランの構成について御説明がありました。

資料5の「見直しの視点」にこの会議の意見という欄があります。昨年度の推進会議では、第2期プランを策定するに当たり、宮城県の特徴が見える取組という意見が出ました。第2期はもっと踏み込んだものを提示していこうかということで、今回の資料6には、基本目標に具体的な課題を提示してはどうか、ということで例示がされております。

宮城県らしさ、といった時に課題として持っている宮城県らしさとこれを解決する資源として持っている宮城県らしさという2つの面があります。

宮城県らしさ、についてどういう面に絞っていったらよいのかについて、委員の皆さんに御意見をいただきたいと思っております。

横山委員

一昨年、宮城県の児童生徒の肥満傾向についてお話をしたことがあります。小学校の上級生くらいから肥満が増え始めます。その地域で、いかに食育に取り組んだかで肥満傾向が変わってきます。

七ヶ浜では、10年前から食育に取り組んでおまして、この地域では肥満はほとんど見られない。乳幼児から取り組み、成人まで、あるいは老人までという取組をした実績があります。宮城県はいまだに肥満の児童生徒が多いことを考えれば、肥満にはぜひ取り組んでいただきたい。

食習慣、生活習慣の問題は非常に大きくて、児童生徒は5～6%位が朝食を摂っていない。もっと年齢が進むにつれて増えていって20～30%という成人の人たちが朝食を摂っていない。これは食習慣の乱れが関係しているという印象なんです。食育は、ある年齢に限ってやるのではなくて、継続的にライフスージ全体で取り組むのがいいという風に考えています。

議長（平本会長）

ありがとうございました。

案では子どもに重点的に、というような例示されておりますが、この辺はいかがでしょうか。

横山委員

子どもに、ということではありません。メタボリックシンドロームは中高年に対して取り組むために特定検診、保健指導をしていますが、ある特定の年齢層ではなくて、児童生徒からスタート全年齢を通じてという考え方です。

議長（平本会長）

全ライフステージを通じて、肥満についてを課題とするという御意見です。

この部分は、今日の本題ですので各委員から御意見をいただきたいと思っております。

高橋委員（宮城県小学校長会）

子どものことが話題になりましたが、今私たちが取り組んでいる食育では、「児童に向かった食育では遅い」という感があります。食育は、この子たちが大人になった時に、しっかりと自分の子どもに食育できるような大人を育てようという目標を持たないと、子どもたちの後ろにいる保護者への啓発が難しくなっています。幼稚園から、または小学校

からということではなくて、本当に社会全体で将来親になるであろう子どもたちに学齢に応じた食育をしていかなければならないと思います。

小学校では、食育の中では、「給食が生きた教材」とキャッチフレーズでも謳われています。給食が最後の砦です。少し前でしたら家庭科の学習の中で、「1週間の宿題ということで、朝昼晩3食のメニューを調べてきなさい」ということができました。ところが、最近はそのような宿題を出しにくくなっています。それは、家庭の形態が変わってきて、必ずしも両親揃っているわけではありませんし、食の形も変わりつつあるからです。余談になりますが、給食が休みのお弁当の日は、通常ならお母さんがお弁当を作って朝それを子どもが持って学校に来るとするのが当然と思われるのですが、昨今は温かいものを食べさせたいからと、あとから届けに来ます。温かいものという言葉の裏には早起きして登校までにお弁当が作ることができない。作らない。子どもを学校に送り出してからゆっくり作るという方もいるのです。また、ある家庭では「ファストフードを買ってください。あとで料金を支払います」と連絡がきます。このような実態から、食についての最低の基準は全員が摂る給食しかありません。目の前にある給食で栄養の学習をさせたり、マナーを考えさせたり、というように給食がまさに最後の砦だと思います。給食だけではありませんが、ゆりかごから墓場までという言葉が食育にも通じるのではないかと思います。

議長（平本会長）

学校での食育の厳しさについてお話いただきました。今、議論しているサブテーマについての御意見はいかがですか。

高橋委員

この部分については、子どもに限らず社会全体をとらえた言葉で設定してはどうかと思います。

議長（平本会長）

では、鎌田委員をお願いします。

鎌田委員（宮城県中学校長会）

中学校長会の鎌田です。むし歯についてですが、沿岸部の学校に勤めていた時、むし歯が全国平均よりずいぶん高くなっていました。だいぶ前から言われている宮城の特徴です。であれば、おとなもやはり関心を持っていかなければいけないということで、喫緊の課題としてここに出てきたと思いますが、高橋委員も話したように、子どもとすると限定されてしまうと思うので、食育ということであれば、サブテーマは全部入る形がいいのかと思います。学校は学校で頑張っているのですが、こちらのサブテーマを見てそれぞれ学校サイドでもやるという形だといいいのではないかと思います。

関連で質問させていただきますが、県民意識調査の結果をみると、「食育への関心が高い」のに「自己評価」が全国平均より低い、というのが気になっていますが、この辺のところは、第2期計画には関係があるのか、学校でも点数がとれればとれるほど意欲が上がるといったことがあります。関心が高まったために知識が増えて自分を厳しく見てしまうのか、何か分析があればお願いします。

事務局（健康推進課 金井課長補佐）

県民意識調査については、第1期プランの基準値とは別な方法で調査をしておりますので、あくまで参考値ということにはなります。

なぜ、関心が高いのに自己評価が低いのかということですが、その正確な理由というのはこの調査からだけではわかりませんが、鎌田委員のおっしゃるように関心があっても、知識があるために、目標と現状の違いがわかるために評価が低くなるということはあるのではないかと思います。

議長（平本会長）

藤本委員、お願いします。

藤本委員（宮城県保育協議会）

保育所に務めております、藤本です。先ほど、横山委員から小学校高学年で肥満が増え

てくるというお話がありましたが、保育所ですとそんなに肥満の子どもがいるようには見られません。なぜ小学校で増えてくるのかと考えると、育つとともに自らが実践できるようにしていくことが大事だと思います。

私も子どもに限定せずに、それぞれのライフステージで自分の健康づくりができるようになればいいのかと考えました。

議長（平本会長）

むし歯や肥満などの特徴的な課題を盛り込んでいくという考え方についてはいかがでしょうか。

藤本委員

よろしいと思います。むし歯についても宮城は多いというのがずっと課題になっていますので。

議長（平本会長）

次、佐々木委員をお願いします。

佐々木（賢）委員（宮城県 PTA 連合会）

サブテーマについて具体的な文言が出てきませんが、県 P 連で、食事がエサ化しているのではないかとということで、アンケート調査をしたことがあります。食べ物に対して感謝する気持ちが薄れている。時間が来たから食べるというのが心配で、そういう内容を入れたアンケートをしました。アンケートでは、時間が来たから食べるというのが大部分で、感謝の気持ちが弱いかなと。

第 1 期プランの策定には参加していませんが、宮城ならではの食材を伝えるということ盛り込んでいくのであれば、それを作ってくれている方々への気持ちを出すというのが必要ではないかと思っています。

さきほどから肥満とかむし歯の話が出ていますが、私も中学生の子どもがおりまして、うちの学校もむし歯で悩んでいます。むし歯になっている子どもが結構いますが、治療に通えない子どもが多いことが心配です。むし歯には少なからずなるのかなと。ただそれを治療に通わせられない親がいるということが心配です。むし歯にならないように教育しましょうということももちろん大切ですが、そういう現状もあるということだけお話しておきたいと思います。

肥満ももちろん食育と絡んでの現象ですが、子どもたちが体を動かすということ少なくともあるという問題点もあるので、肥満にならないようにというよりも、もっと体を動かす環境にしていくということも必要だと思います。

もう一つ、アンケートは今後の参考にといいことですが、アンケートは本来は目的があってアンケートをするか、あるいはアンケートの結果によって何かしていくのかという 2 つしかないと思います。このアンケートを基にどのように第 2 期の計画に入れていくか、このアンケートを使っていったらどうかと思います。

議長（平本会長）

サブテーマの 1 と 2 の関係をどのように構造化していくのか、ということ佐々木委員からお話があったように思います。

次、佐々木寿美子委員をお願いします。

佐々木（寿）委員（宮城県食生活改善推進員連絡協議会）

基本目標の具体的なサブテーマですが、2 つ目の基本目標について、私たちは食生活改善推進員ですが、17 年頃に食事バランスガイドの地域版を作りました。この項目にびったり、まさに当てはまるのかという思いがしました。合併して 35 市町村になりましたが、食生活改善推進員の団体は旧市町村単位で全部あります。ガイドは作ったもののなかなか活用が少なかったのですが、これから役立つのかなと思います。ヘルスメイトとしてこれを活用しながら、県のプランにも役立って健康づくりに活かせると思います。

アンケートですが、宮城県の課題について考えてみましたが、関心が高いけれども評価が低いというのは、私もそうですが、関心を持っていてもなかなか実行できないという感じがあります。アンケートの結果を踏まえて、私たちの活動の中にアンケート結果を取り

入れながら健康づくりをしていきたいと思えます。

議長（平本会長）

佐々木委員からは、食育を進めていく際の方法、どういうツールを使うのか、についてお話をいただきました。アンケートに御意見いただきましたが、これはあくまで意識調査ですので、課題抽出については、すべてのデータから取っていくこととなりますので、よろしく願いいたします。

議長（平本会長）

では、尾本委員お願いします。

尾本委員（宮城県農業協同組合中央会）

今回初めて出席します。JAの尾本です。今、基本目標に対するサブテーマということですが、JAとしては2つ目の目標の食材の活用ということがあるんですが、宮城の食材を学ぶというようなこともあるとありがたいなと。食材がどのようにして出来てくるのか、というのが食育の中に入ってくるとよろしいかなと。食べ物はお金さえあればいつでも手に入るものではなくて、作る人がいて食べる物がある。そういう意味でここに書かれていますと思いますが、学校給食の話が出ましたが、学校で給食に使う食材を子どもたちが作ることで好き嫌いがなくなる。バランスが良くなることにもなるでしょうし、何よりも食べ残しが少なくなったという話もありますので、自分で作って自分で食べるということ。

私もJAで仕事していますが、旬の時期がよく分からないという話があります。いつでも食材がスーパーにある。本当に食材の旬がいつなんだろう。豊富な宮城の食材について学ぶという、必ずしも学校だけでなく。親子で学ぶということがあればいいと思えます。ではサブテーマどうするかということですが、今すぐ出てきませんが、これは複数あってもいいのでは、という気がします。

議長（平本会長）

次に加藤委員お願いします。

加藤委員

私もこの具体的な課題なんですけど、目標があってその下に説明がありますが、その目標と説明の間に入るこれが県民の人にとって、よりわかりやすい内容でないといけないと思うので、1については、「県民一人ひとり」がという主語の基本目標に対してなので、多くの方々に対する取組について考えなければならないと思うので、年代を限定する言い方はやめて、多くの方々の問題について取組を進めていくんだということで、肥満がいいのかむし歯がいいのかわかりませんが、健全な食生活と心身ということになると、肥満とむし歯に限定していいのかわかりませんが、県民によりわかりやすく知らしめるという点ではいいのかなと思えます。

2番目についてですが、宮城の豊かな食材の裏にはこれを作っている人がいるというのがあるので、活用だけでなく、きちんと感謝する気持ちや残さず食べるということ伝わるような感じがいいのではと思えます。

食育というと、健康増進というのが常に、食べることによって体をきちんとしたものにしていくというのが基本だから健康づくりと入るのだと思えますが、無理に2番に健康づくりを入れなくてもいいのかなと思えます。

議長（平本会長）

大変難しい議論で、いろいろな御意見をいただきたいのですが、食育は、すべてに当たっていきます。基本目標の2つはすべてを網羅していますので、これでやっていくとなると、第1期と同じようにすべて網羅する形になります。そうでなくて第2期は何か重点を置こう、全体に渡って取り組むけれど、何か重点目標を持って県が取り組んでいるものがはっきりする方がいいのではないかと、昨年度からの話の方向になっています。

では、どこに絞るかということの本日は議論していて、問題は様々ですから、議論がいくつか出てきています。そういう中で、どこに進むのか。第1期と同じになるのか、という議論が戻ってしまうので、その辺をもう少し意見をいただきたいと思えます。

若生委員（スローフードジャパン）

先ほど高橋委員の話にもありましたが、今、問題なのは学校給食が最後の砦という話がありましたが、給食の問題をもっと真剣に考えることが重要と感じています。特に地元の食材をいかに使うか、給食そのものを食育の場にどう切り替えていくか、生産者と結びついていくか、尾本委員の話にもありましたが、生産者のこと、食材のことを学ぶ機会。この部分を少し取り組んでほしいと思いました。

栄養教諭の部分で採用は進んでいますが、研修などはどうでしょうか。教員が食育の意識を高めていく研修などの取組があれば教えてください。

スポーツ健康課 熊谷課長補佐

栄養教諭は全部で44人採用されています。研修も実施されています。栄養教諭も学校単独給食とセンター給食とあり、食育に対する指導の仕方を研修しながら深めていっているところです。

文部科学省からも指導の仕方について来ておりまして、時間をかけて児童生徒の指導を進めていきたいと考えています。

議長（平本会長）

若生委員，学校給食をサブテーマに盛り込むという御提案でしょうか。

若生委員

入れられるなら，入れた方がと思います。

鎌田委員

中学校ですが，学校給食が最後の砦というお話しがありまして，色々と学校給食に対する期待が云々ということがあったのですが，現状でも学校給食関係，色々なことに取り組んでいる学校がほとんどだと思います。家庭科でも男女共修で，今やもう一昔，ふた昔前に比べると「男も料理するのが当たり前の時代」になったんですね。あるいは早寝早起き朝ご飯。ということで，もう朝ご飯を食べてくる子どもも中学校では90%を超えています。また，農業体験その他も色々中学校の現場で普通に組み込まれている。まさに，食育の色々な運動が形となって学校ではできているところがあります。学校給食についても放送を使って，今日のメニューは町内の誰さんの食材を使ってやっていますというような学校は当たり前のような状況です。だから，一生懸命取り組みましょうというよりも，このように色々やっているんだということをご紹介したいと思いました。

ただ，子どもたちの実態として朝ご飯を食べてこれない家庭が時々見受けられるような地域や学校もあります。また，いわゆる給食費未納問題ですが，要保護，準要保護，生活保護の家庭が年々増えて，給食が最後の食べ物の拠り所だというような，大変困っている家庭が増えてきている現状もあります。

議長（平本会長）

ありがとうございます。もう一度確認しますが，今日の推進会議は第2期の食育推進プランの重点的なテーマ，全体的には粛々とやっていくんですけども，第2期だからもう少し重点的なもの，テーマも作ったらどうかということについて議論するというので，お話しを収斂させていただけると大変助かります。

では，鈴木委員お願いします。

鈴木委員（宮城県栄養士会）

宮城県栄養士会の鈴木でございます。わたしも今日初めてこの会議に出席させていただいているんですけど，子どもの肥満やむし歯の減少に重点的に取り組みますという具体的な課題のところなんですけれども，やはり，子どもの肥満というと大人にもつながって行くと思うんですね。小さい時に肥満だとそのまま，大人になってもやせられない方々もいらっしゃると思うので，ここに子どもの肥満というのが出てきたというところが良いかなと私は思います。それから，宮城県は子どものむし歯が多いため，これからも重点的に取り組んだ方が良いというところなので，これも良いかなと思っていますので，具体的な課題の1番の方のところでは私は賛成です。2番の方なんですけれども，加藤委員のお話

賛成で無理に「健康づくり」を入れなくても良いと思いました。以上です。

議長（平本会長）

では、次横山委員をお願いします。

横山委員（宮城県医師会）

肥満傾向といういろいろな事に関連するんですね。たとえば運動能力を見れば、肥満傾向の人たちは、俊敏性に欠けるとか、肥満のために運動能力を持っていないために余計肥満がある。もう一つ心配なのは、生活習慣の関係です。最近の幼児たちというのは9時前に寝ることがないんですね。なんでこんなに遅いのかということとお父さんが帰ってくるのが遅い。それまでテレビを見ている。食欲がないだとか。そう言う子どもの生活習慣の中に食育の観点が非常に関係してくる。肥満の原因として、生活習慣自体がおかしいんじゃないかと。そういったあたりが、まず関与してくるという意味で、肥満というのは色々な面を持っていると思います。

もう一つは、食の安全というのが私個人としては一番心配です。食品を買う時には、裏をひっくり返して見なければいけない。誰が食の安全をみてくれるのかというのが一番心配です。これは今回の話とは、ちょっと関係ありませんが。

議長（平本会長）

次に鈴木委員をお願いします。

鈴木委員（宮城県歯科医師会）

基本目標が第2期の計画で定められたのは、第1期の反省から出てきているはずですね。それで、この資料5の右側の方ですね、第1期計画に対する評価と推進会議委員の意見というものにですね「達成困難な項目」というのがあって、朝食を欠食する県民の割合（小学5年生）というのが、「達成困難であった」と。それから、下の意見のところ「子どもの朝食欠食・肥満」に対して家庭のアプローチ評価ということが第1期のところから出ておまして、それを基にしてこの基本目標とサブテーマが出てくるんだと思います。

それで、目標があって重点施策があって、計画の推進というのがあって計画の推進のところにはですね、ライフステージにおける食育の取組と言って、すべてのライフステージに対する取組が出てくるわけですね。なので、ここの基本目標のサブテーマには「子どもの」と入って別に問題ないのではないかと私は思います。

説明のところですが、私は保育所の歯科医をしまして、検診に参るとき親御さんにどうしても一言言いたいので、朝7時ぐらいから行って、連れてきた時に一緒に診ているんです。そうすると大体親御さんを見ると子どもの口の中が分かる傾向がありまして、私何度も診ていますので、同じ子どもだったりするんですが、それで説明の中に一言入れてほしいのは「しつけ」という言葉です。むし歯にしても肥満にしても結局は生活習慣、食生活だけでなく、宵っ張りであるとか、そう言ういろんな生活習慣が原因となっているのは自明の理でありまして、これを一言で表す日本の良い言葉は「しつけ」ではないかと思うんです。それで、そういうものが必要なんだということを親御さんに分かっていたら駄目だと思ってしまうんです。それで、ここに「しつけ」という言葉を一言入れていただけると私はすごく嬉しいと思っております。

議長（平本会長）

鈴木委員のお考えによれば、子どもと書いてあっても子どもの後ろには親が居るわけだから、子どもを入り口にして全ライフステージが見えているので、そういう意味でのサブテーマの置き方でいいのではないかと御意見がありました。次に伊藤委員をお願いします。

伊藤委員（公募委員）

今、学校給食もかなりのところでアウトソーシングが進んでいるんですね。私が中学生くらいの時には、東京都なんですけれども、スタッフが90パーセント以上自治体の職員、即ち公務員なんです。公務員が調理して、それを学校の児童生徒に食べさせるというふうになっていたんですけれども、今私が概観するところではほとんどのところで外部委託が進んでいる。給食センターに頼んで、そこからトラックで持ってきてそれをちょっと温め

て食べさせるという。

議長（平本会長）

伊藤委員すみません。今の本題のところに行っていないでしょうか。

伊藤委員

やはり、お父さんお母さんが子どもにちゃんと料理を作って食べさせるということを、小中高を通じて実践し、団らんというものも取り入れた方が良いのではないかと私は思っています。一日に最低一回でもよいから食卓をみんなで囲んで、「今日はこういう事があったね」と家族と一緒に会話をしながら食事を摂るといふ風にするといふやっぱり食育に関するいろんな疑問点といふものが明確になっていくんだと思うんです。それで問題も解決していくのではないかと考えています。以上です。

議長（平本会長）

ありがとうございます。今の意見に対してですか、高橋委員どうぞ。

高橋委員

食育推進プランには、2つの基本目標がございますね。この2つの目標が今、第2期計画の策定という事で文言が書かれているのですが、この下に視点が設定されているわけですね。今まで私たちが述べていることは、だいたい網羅されていると思います。しつけのことや、家族団らんのことも入っています。

新たに具体的なサブテーマを決めた時に、この中から具体的な取組として選ぶのか、まったく関係なく選ぶのか、しかし、もし新たに選ぶとなると、焦点がぼけてくる気がします。せっかくプランがあるので、その柱を崩さないように決めるのが良いと思います。

議長（平本会長）

新たな御意見だと思えます。まず、ひとつのテーマについてこの視点で粛々とやっていくことの事務局の提案だと思えます。内容について子どもの肥満とかむし歯の課題について5つの視点で取り組んでいくという表現で今御提案いただいている。今高橋委員がおっしゃったのは視点そのものの中で濃淡をつけて選んでいくというご提案なので、ちょっとまた議論が違うかと思えます。三浦委員お願いします。

三浦（充）委員（公募委員）

今回から出席させていただいている三浦でございます。

具体的な課題やサブテーマを1つ決めた方がインパクトがあると思いますが、テーマ性を考えれば一つに絞らず各テーマに、理解しやすいサブテーマがあってもよいと思います。1つのサブテーマでは、5つの目標の縛りとなってしまう懸念もあります。子どもの肥満は、深刻な問題です。しかし、県民すべてにアピールするものの方がよいと思います。それに、宮城の食材や郷土料理を理解するためにも、伝統や郷土性を重視したものも加えても良いと思いました。

議長（平本会長）

今日ここで委員に課せられていることは、今まで第1期で掲げていることは、みなさんがおっしゃっていることは粛々とやっているんですね。活動団体によって濃淡がありますが、進んでいく。県として何かこのままではなくて重点目標的なものを明確にした方が変わっていくところが具体的に目に見えてくるのではないかと。すべてのものが重要なんだけど、その中で取組の優先順位をつけようというお話しが出ていたと思います。第一期の会議の最後に。今日出てきた事を整理させていただきますと、少なくともライフステージについて言えば、全体のライフステージを見渡したようなサブテーマがいいんだろうという意見が大方を占めたのだらうと思います。

それとサブテーマの置き方というものを第一期の重点の視点だとか基本目標だとかいくつかありますから、それぞれにサブテーマのようなものを明確につけた方が良いのではないかと。これは今事務局で提案していただいているのは基本目標の二点について作るというよう構造になっているけれども、もう一歩下がった食育の推進の視点だとか重点施策が5つありますね。その中でサブテーマを設けた方が良いのではないかと。御意

見もあります。時間に限りがありますので、事務局の考えとしてはここである程度具体的な方針を決めていただいたら、それに併せてワーキンググループを作ってそれぞれのテーマ毎にグループ毎に議論することが良いのではないかとということが昨年度来出ておりますので、そのような方向でという事だったと思いますけど、そこまで決めるには少し時間が足りなかったと思います。それで、一旦事務局にお戻ししますね。

事務局（健康推進課 南條課長）

本日みなさまからいただいた御意見をもう一度整理をしまして、それを委員のみなさまにお返しし、御意見をいただいた上でワーキングのグループ分けなり、メンバーの選定をさせていただきたいとおもいますがいかがでしょうか。よろしくお願いたします。

議長（平本会長）

初めての方もいらっしゃるし、それぞれの立場の御意見もそれぞれに多様なので、完全に絞り込むことは十分に出来なかった。ただ、そのときの方向としてライフステージを入れた方が良いとか、1と2の基本目標を関連づけないでそれぞれで考えた方が良いとか、いくつかの論点は出ましたので、事務局に整理していただいて、委員の方々に郵送していただいて、スケジュール的にはおそらく集まるような形ではない意見交換があって、ワーキンググループを結成することになろうかと思っておりますけど、よろしくお願したいと思います。事務局にお返しします。

事務局（健康推進課 金井課長補佐）

ありがとうございました。次回の会議ですけれども、資料3で御説明したとおりワーキング部会を8月上旬に予定しておりますが、それに先立ちまして、今お話しの出ました御意見を一旦いただいて、やりとりしながら、ワーキング部会のご案内をさしあげたいと思います。なお、時間の関係でお話しの出来なかった事などは、お手元にお配りしております御意見用紙にご記入の上、配布しております封筒での郵送またはファクシミリ、メール等で事務局あてにご送付くださるようお願いいたします。なお、資料について何か所か修正がございましたので、後ほど修正後のものをお送りします。

司会（健康推進課：亀山課長補佐）

委員の皆様、長時間にわたり御協議いただきありがとうございました。

以上をもちまして、平成22年度第1回目の宮城県食育推進会議を終了致します。大変ありがとうございました。